

## 【アムロジピン錠 2.5mg「杏林」の溶出性に関する資料】

- ・アムロジピン錠 2.5mg「杏林」と標準製剤との溶出挙動の同等性を検討した。
- ・アムロジピン錠 2.5mg「杏林」は標準製剤と溶出挙動が同等であると判定された。
- ・アムロジピン錠 2.5mg「杏林」は日本薬局方外医薬品規格第三部に定められたアムロジピンベシル酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

### 1. 実施方法

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に準じて実施した。

試験製剤	アムロジピン錠 2.5mg「杏林」	
標準製剤	錠剤、2.5mg	
剤形	フィルムコーティング錠	
試験条件	パドル法/900mL/37°C±0.5°C/界面活性剤なし	
試験液	50 回転	pH1.2：日本薬局方崩壊試験の第1液
		pH4.0：薄めた McIlvaine の緩衝液
		pH6.8：日本薬局方崩壊試験の第2液
		水：日本薬局方精製水
	100 回転	pH6.8：日本薬局方崩壊試験の第2液

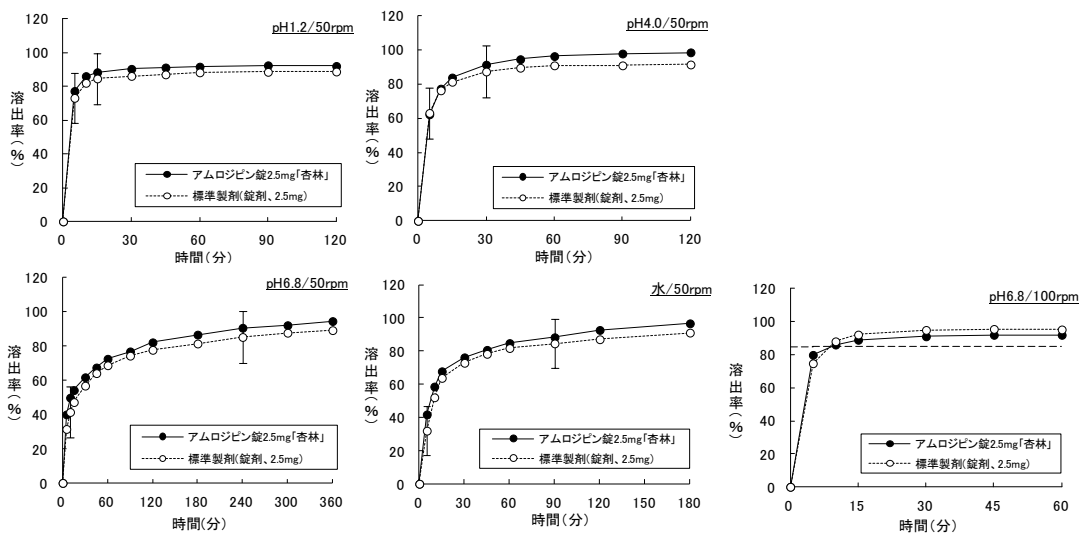
### 2. 判定基準

標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合：pH6.8/100rpm
試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する。又は、15 分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。
標準製剤が 15 分～30 分に平均 85%以上溶出する場合：pH1.2、pH4.0/50rpm
標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。又は f2 関数の値は 45 以上である。
標準製剤が 30 分以降、規定された試験時間以内に平均 85%以上溶出する場合：pH6.8、水/50rpm
標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。又は、f2 関数の値は 45 以上である。

### 3. 結果

#### 3.1. 溶出挙動

2 製剤の平均溶出率を比較した図（判定点及び範囲）【50 回転/100 回転】



## 【アムロジピン錠 2.5mg「杏林」の溶出性に関する資料】

## 3.2. 平均溶出率

溶出条件	判定時点 (分)	12 ベッセルの平均溶出率 (%)			判定
		アムロジピン錠 2.5mg 「杏林」	標準製剤 (錠剤、2.5mg)	差	
pH1.2/50rpm	5	77.2	73.1	4.1	適合
	15	88.3	84.6	3.7	
pH4.0/50rpm	5	62.2	63.0	-0.8	適合
	30	91.2	87.2	4.0	
pH6.8/50rpm	10	49.8	41.4	8.4	適合
	240	90.6	85.2	5.4	
水/50rpm	5	41.8	32.0	9.8	適合
	90	88.3	84.6	3.7	
pH6.8/100rpm	15	89.0	92.2	-3.2	適合

(2014年12月)  
(販売名変更に伴う改訂)